

## 第2回 学校関係者評価委員会 意見交換より

1 実施日 令和元年9月10日(火) 午後7時より

2 会場 校長室

3 参加者 学校関係者評価委員 保坂 昌志(寺部区自治会長)  
北村 敏(スクールガードリーダー 元教員)  
金子伸二(保護者代表・PTA会長)  
中山(保護者代表・PTA副会長)

学校側 河西 美代司(校長) 望月 政幸(教頭)  
石川 明子(教頭) 永関 修(主幹教諭)

4 学校側から提案された内容

前期の学校評価(教職員自己評価・児童アンケート・保護者アンケート)についての解説や考察を教頭より、具体的な児童の様子を主幹教諭より説明した。

5 協議された主な内容

学校側からの説明を受け、座談会を行った。

○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

1 夏休みの過ごし方について

○家にいる時間が多く、外にあまり出かけなかった。高学年になり、プールへ出かける回数も減った。

ラジオ体操の実施回数も減り、家でゲームなどをして過ごす時間が多かった。

○地区の催し物などもなくなり、夏休みだからこそできるものが減ってきた。

○自転車の乗り方が危ない。交差点で止まらないまま通過する子がいて危ない。

○高学年ほどヘルメットを被らなくなってしまう。H21年に大きな事故があったこと等を取り上げて継続した指導によりヘルメットの着用率を上げたい。

☆生徒指導主任を中心に、全校で集まる機会等を捉えて指導を行っている。継続して指導するとともに、保護者を巻き込んだ敬かつ活動を仕組んでいく。

2 あいさつについて

○時期的なこともあると思うが、以前よりあいさつに元気がなくなっている。

○若草小の児童はよくあいさつをする。止まってくれた車にもきちんとあいさつができるとよい。

○地域の人の中には、「あいさつをする子供達から元気をもらっている」と言っている人もいる。

☆学校内で児童は「おはようございます」「こんにちは」などよくあいさつをしている。地域へ出た時のあいさつや家庭でのあいさつにやや元気がないのかもしれない。児童会を中心に取り組んでいく。

### 3 聴く力について

- 今の子供は聞いているのか聞いてないのかわかりにくい。聞いたことを行動に移す力が弱いように感じる。
- 家庭で最後まで「最後まで話す・最後まで聴く」を小さい時からしていると聴ける子になる。聴くことを習慣づけることで聴ける子になる。
- ☆聴くことは、自分の時間を相手のために使う行為であり、相手の存在を大切にし、認める行為でもある。パターンとして聴く・応答するではなく、中身の部分を高めていきたい。

### 4 携帯のルール作りについて

- ルールを作っていない家庭が多いことに驚く。
- いじめやトラブルの原因ともなることなので、家庭で一緒に考えていく必要がある。
- LINE やメールに気を取られる時間が増え、そのことで気持ちがいっぱいになってしまうので、上手に使えるようになってほしい。
- 買い与える前に、わが子自身に自分をコントロールできる力があるか考えさせることも必要。
- ☆保護者も一緒に考えてもらうことで、正しい使い方を知り振り返るきっかけとなる。親子で一緒にルール作りをする機会を設けるなどしていく。

### 5 その他

- 年頃なのか、格好いいと思っているのか、言葉づかいが汚くなっていることが気になる。
- ☆正式な場できちんとした言葉遣いができる力をつけてほしい。
- 施設や備品が充足していないようだが、繰り返し要望を出していく必要がある。
- ☆耐寿命化に向けて改修があると思うが、気が付くところは粘り強く上げていく。PTA の要望で特別教室にエアコンがついたことはよかった。
- 「ふるさと若草を愛する子供」を育ててほしい。
- 児童一人一人に目を向け声掛けをする中で、先生を好きな子供達を育ててほしい。その中で、子供が先生の言うことを聞き入れていくのだと思う。
- ☆10月16日に地域ふれあい道徳・教育講演会がある。たくさんの方の参観をお待ちしている。